

「この世界で綺麗な場所」

坂口 裕靖

美少女仮面といえばポワトリン、ポワトリンといえば主題歌が「17の頃」。2018年は2001年の17年後。というわけで、ごらんになりましたか、「ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント・製作50周年記念『2001年宇宙の旅』70mm版特別上映」を？

たまたまtwitter経由で上映があることを知ったのが8月30日。その週末、9月1日から前売り開始になるというじゃないですか。これはなんとしても見ておかなければなるまいと思いました。おそらく今後見ることが出来ないであろう70mmフィルムを、国立映画アーカイブという最高の状態で見れるわけですから、これを逃す手はありません。上映は10月6日(土)2回、7日(日)2回、11日(木)2回、12日(金)2回、13日(土)2回、14日(日)2回の、合計わずか12回。シアターのキャパ

が310名、毎回入れ替え制なので、延べでも3,720席しかないわけです。当然熾烈な競争が予想されます。中には何回も見る人もいるでしょうし、土日は多くの人が狙うでしょう。というわけで、いろいろ策を練りながら前売り開始を待ってたわけです。

で9月1日土曜日12:00、いよいよチケットぴあのサイトにアクセス。アクセスした直後はまだ輻輳しておらず、余裕でチケットをカートに追加することができました。なんだ楽勝じゃん、とおもって支払いに進もうとしたところ、なんかにつちもさっちも行かなくなります。あれ、と思ってるうちにサイトが糞詰まり、一旦キャンセルしてログインし直してみると、すべてのチケットが売り切れてました。もう虚脱ですよ。最初の数分で前売り券各回200枚、合計2,400席分が売り切れたようです。

しかし、ここで諦めてはいけません。前売り券は各回200席なので、理論上当日券に110席が用意されてるはずですよ。上映日の待機列、220番以内に並ぶことができれば、当日券にありつけるはずですよ。というわけで、戦いの局面は当日券をいかにして入手するか、に変わりました。

今回の特別上映では、まず開館前に整理券を配布、ついで上映の30分前に集合し、整理券を持っている人に当日券を販売、入場という手順になっていました。土日は10時開館・11時および15時半に上映開始、平日は11時開館・14時および18時半上映開始というスケジュールです。土日が4日、平日が2日ですが、土日は混雑が予想されました。金曜日は会議がある関係で、第一ターゲットを10月11日、木曜日に設定しました。前売り券が入手できなかった瞬間に10月11日の予定を「私用

One Point BUZZ WORD

IMAX

70mmだけでも嬉しかったのに、今回はなんとIMAXでも2001年が上映されることになりました。10/19から2週間限定公開ということで、例によって会社サボって見に行きました。幸い都内にはたくさんスクリーンがありますし。

いや正直、70mmを見た素直な感想としては、もうフィルムじゃなくてもいいんじゃないの、というものでした。デジタルプロジェクトなら画のしゃくりもないし、フリッカフリーで表示できるし、解像度もそこそこだし。まあIMAXはでかいスクリーンが魅力ですから、今回はそこを堪能するつもりででかけたわけですよ。

座席はもちろん一番前のどセンター。悲しいことにメガネの画角よりスクリーンの方がほんの少し大きくて、首をちょっとでも動かすと見切れてしまう状態です。という状態で映写開始を待ちました。

で、人類の夜明けのファーストカットをみて、愕然としました。70mmですんなり表現されていた階調が、全く出ていないのです。暗いところは濃れ、明るいところは飛んで、70mmで見た画がほとんど再現されてません。改めてフィルムが持つ、階調表現の豊かさを思い知らされました。次に驚いたのが画が揺れること。これはまあ、スキャンだから仕方ないところはあると思います。それでもフィルム上映よりは揺れが少なかったんじゃないかとは思いますが。一番残念だったのが解像度不足。人類の夜明け、骨を叩き割るシーンではハイコントラストのエッジがありますが、それらがすべてジャギーになってるのが残念。最前列で見たのがちょっとやりすぎだったかもしれません。もう少し後ろの席ならおそらく気にならなかったでしょう。まあでも視界一杯のスリットスキャンは見ごたえありました。とりあえずこれで一段落...かと思ったら、今度は12/1に8K放送ですよ!?

外出」で塗りつぶし、心置きなく会社をサバれるようにセット。あとは上映当日を待つだけです。

10月6日、初回上映の前後から、当日券狙いの状況がtwitter上に上がってきます。9時でもなんとか余裕がありそうなtweetが並んでました。初日であること、土日であることを勘案すると、10月11日木曜日は徹夜するほどじゃないだろうと判断。川越から頑張って4時台の始発で出たとして、6時15分ぐらいに現地到着ということになります。開館が11時ですから、最悪5時間ぐらい待つ計算。あまり早く行き過ぎても地獄を見ますし、遅いと当日券にあぶれるので悩ましいところ。ひとまず川越を6時半ごろ出発、8時前に現地到着でいく予定を立てました。

そして前日夜。やっぱり眠れないわけです。うつらうつらしながら5時に起床。ちょっと寝たりないところですが、このまま寝ても仕方ないため、予定より1時間早く家を出ることにしました。駅についたところ、元町・中華街行きがあったのでとりあえず乗って、和光市で新木場行きに乗り換え。銀座一丁目でおいて京橋の国立映画アーカイブへ向かいました。現地到着が朝の7時15分、「最後尾こちら」というプラカードを抱えた警備員の方のところに駆け寄り、近代ビルヂング沿いの待機列お尻に並ぶことが出来ました。警備員さんの話だと90名弱がならんでとのこと。近代ビルヂング沿いの列は私の数人後ろで打ち切り、残りは国立映画アーカイブ前の歩道になったようです。こちらは幸い地べたに座れたので、その意味では楽が出来ました。

8時過ぎに整理券についてのチラシ配布。9時過ぎ、人が多いので開館時間を早め、とにかく館内で待てるようにするとの

アナウンス。いずれも富田さん御本人が直接されてました。頭が下がります。10時過ぎには館内に入れて、順番に1列15人ぐらいの待機列に別れて並び直しました。整理券の配布は11時前に開始となり、無事10:56に整理券ゲット。少しでも座席の自由がきくように、夕方の回をお願いし、整理番号212番。前売り券が200枚ですから、当日券組の12番目というわけです。苦節3時間45分、やっと開放されて、仕方なく会社へ向かいました。夕方まで適当に過ごして、念の為開始1時間前に国立映画アーカイブへ。浅草線だと宝町が近いんですな。暫く待つこと30分、定刻通り18時から入場開始となりました。まずは前売り券の1番から5番まで、一人ずつ呼び出されて、右手側の階段から劇場に向かいます。このとき転売防止として、名前の確認できる身分証が必要なのでした。ノーモアダフ屋。座席指定ではないので、番号が若ければ席の自由度が高いというわけですね。続いて5人ずつ呼び出しとなります。これ無限にかかるんじゃないかと思ったのですが、そんなことなく、あっという間に前売り券組は入場完了。続いて当日組についても、最初の5人は一人ずつ、以降は5人ずつ呼ばれて左手側の階段から劇場に向かいます。階段の先に受付があって、当日整理券を渡して当日券を購入する流れ。なるべく広い画角で見たかったので、前から二列目（というか、2行目というか）のちょい左よりに陣取れました。スクリーン全体が無理なく視界に入る状態です。

ご担当の富田さんが前説。70mmなので、フィルムが引っかかると映写機が壊れる、映写技師はそのプレッシャーと対峙してるとの説明です。以前エスターベースの16mmフィルムが引っかかって、でかい

エンドレスがぐしゃぐしゃになった事故を思い出しました。いやー、映写の担当されてる方は吐きそうなんじゃないでしょうか。世界に一本しかないプリントということですし。

2001年といえばソラリスと並んで強力な催眠効果を持つ作品ですし、あまり寝てないのでどうなんだかちょっと気になってましたが、完全に杞憂でした。結局全く眠くなることすらなく、あっという間にインターミッションを迎えました。久しぶりにフィルムの上映をみると、やはり画の揺れとフリッカのきつさが気になります。スクラッチやバラとかについてはそうだね、フィルムってこうだったと懐かしくなる感じ。正直に言うと、画の方は期待したほどの解像感はありませんでした。70mmということで期待しすぎていたのかもしれませんが。それでもインターミッション後のディスプレイ一号はシャッキリ見えてましたので、カットごとに状態が違ったのかもかもしれません。computer multifunctionのヴィーって音が頭にザクザク刺さり、これぞまさに映画体験。おうちシアターだとボリューム下げる部分ですが、映画館だと逃げようも避けようもありません。

無事映写がおわり、美しき青きドナウがなり終わると、観客が一斉に立ち上がって映写室の方に向けて拍手したのは、いろんな意味で感動的でした。なんかこう、アナログの人間っぽさが詰まった、貴重な体験をすることが出来ました。感謝しかありません（拝）。

Hiroyasu Sakaguchi
(株) IMAGICA イメージワークス